

ファンション都市の舞台装置を創る

日本の洋家具の草分け神戸の家具

永田 良一郎

△永田良介商店社長▼

高野 敬朗

△神戸客員社長▼

小泉 進吉

△入船社長▼

吉田 俊夫

△メーブル不二屋専務▼

河南 忠義

△河南工芸社常務▼

★ヨーロッパ家具の伝統を受けつく神戸の家具

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、
“神戸らしさ”の文化の発掘であった。文化を即生
活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこ
そ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに色
どり、楽しくしていくことは、まさに“文化開発”
そのものではなかろうか。

“ファンション都市・神戸”はそのような環境の
なかで息づいている。

そこで、ファンション都市・神戸の本質的な理解
練りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は神戸の洋家具関係の方々にお集りいただき
神戸の歴史、特質、現状の問題点、さらに、
ファンション都市づくりのなかでの位置づけ、今後
の展望などについてお話しをお願いした。

吉田 それまでの日本にある家具はどちらかといえば直
線的だったものが、かんななどを船大工として使用出来
ますね。

どちらかというとラディショナルなものが得意
ですね。吉田 これまでの日本にある家具はどちらかといえば直
線的だったものが、かんななどを船大工として使用出来
ますね。

るということで、曲線的な美というものが生まれ出されたようですね。

高野 昔は家具といつても桐ダンス、水屋、囲炉裏ぐらいい、それと座敷机という座敷用の家具しかなかったですね。

河南 洋家具の歴史は、神戸や横浜のように向こうの輸入製品とか船の家具修理とかと一番よく接触するところから始っていますね。そういうことでは長崎もそうでしょうね。それが、歴史が古いのは神戸、横浜ですね。

小泉 船の内装とか家具とかの影響が神戸は一番強いですね。それと、居留地があつた関係で、早くから洋風の家具が入つて来て、神戸では洋服の家具をまず咀嚼したということですね。

永田 戦前でも私のところはマニラへ輸出したこともありますし、神戸ではどんな家具でもつくつっていましたね。

高野 家庭の洋風化が始つて洋服ダンスが使われ出したのは大正時代からでしょうね。

永田 明治時代までは役所や官庁、会社ぐらいでしうね。いわゆる洋家具を使つていたのは。

高野 洋家具を家に置くというのは昭和も大分こつちに来てからでしょうね。応接間で椅子を使い出したのもそれ位でしょうね。

永田 一般家庭に洋家具があつたといつても洋間を一つだけとつつけたみたいで、そこへ使いもしない応接セツトを一組も置いてあつたらいい方だつたんじやないで

すか。比較的阪神間では金持ちクラスが多かつたので、そういう意味では洋式の生活というのは早かつたのと違いますか。今でも私のところが大正の初めに納めた椅子を使われているところがありますね。

高野 一般に入口に洋間のついた家が出来たのは昭和からこつちですよ。余つ程の金持ちでない以上は、普通の家では洋間はついてませんね。だから、座敷にジュークボックスを敷いて、その上に応接セットを置いていましたね。

河南 うちには、昭和の初期の頃の、みんな背広を着て椅子に腰をかけている写真もあるんですけれど、一般家庭ではそろでもなかつたようですね。

永田 戦前に椅子、テーブルで食事をしていた家庭は数えるほどしかなかつたですね。大多数の家庭では卓袱台で食事をしていましたね。

小泉 私のところは滋賀県の出身で、神戸へ来たのはおやじの代の明治の中頃です。滋賀の家の食をよく見たものですが、洋家具は殆んどないです。古いソファなんかありましたが、もちろん洋式の応接室なんなかつたし昭和になつて畳の上にジュークボックスを敷いて椅子らしきものがあつたのは覚えてます。神戸の家は昭和の初めにはテーブルと椅子で食事をしていましたね。それが大部分の家であつたかどうかは分りませんが……。

高野 洋家具をつくつた店が何軒あつたか、職人が何人いたかで、どれほどの洋家具が家庭に入つたかが分りますが、恐らく少なかつたでしょうね。

永田 恐らく明治時代の洋家具の需要は役所とか会社、それと外人関係が大部分ですね。日露戦争が終つてからカラフトへ持つて行く家具を神戸でつくらせたという記録があるんですね。洋家具をつくつていたところが日本で少なかつたんですね。大正から戦前にかけて上流階級が神戸の家具を維持してくれたということですね。一般ではそこまで行つてなかつたですね。生活が洋式化されたのは戦後ですね。神戸の家具だけではなく、一般に家具の需要が増えたわけですね。戦後、底辺が増えたんで



永田良一郎さん

★手づくりを守り続ける



高野 敬朗さん



小泉 進吉さん

す。

高野 椅子が大衆化したのは最近ですよ。応接セットと食堂が普及してからです。戦後、食堂の普及が一番早くつたんですけどね。

小泉 初期の洋家具は輸入されていたのですか。

永田 いや、輸入じゃなし、いわゆる古道具というか洋家具が日本になかったので自国から持つて来ただすが、それを処分して帰つたので、それを引き受けて一般に売つていたんですね。それで船大工の技術でもつて椅子なんかを見よう真似ようでつくつて行つたんですね。

今、年代が判つているので一番古いのは明治一八年につくつた。製作者の名前に入っている椅子が垂水の神戸木工センターにありますね。桜を使つているんですが完全に向こうのコピーですね。

河南 初めの頃は全部向こうの模写というか、コピーですね。

永田 量産品が出だしたのは昭和二十七、八年頃ですね。というのは進駐軍からの需要で、大量生産をやらざるを得なかつたわけです。それが米軍の引き上げなどで需要が減つて來たのですが、それだけの設備をもつているので、国内の需要にそれをふり向けて大量生産方式で始めたんでしようね。神戸は特殊なといふか、もう少し上のレベルの需要、それは戦前からあつたものですが、それを守り続けていたのが特産のようにして残つた。頑固に昔のものを守り続けていたから生き残つたんですね。それにはそれだけ、京阪神に家具を買つてくれる階層があつたということですね。

高野 既成品で応接セットらしいものが出て来たのはごく最近ですね。ヨーロッパの家具を輸入し出したのは昭和四十年からこっちですね。それを真似してつくり出したことですね。物品税のため価格が高くなり、一般には売れないので日本では思い切つたものをようつくらなかつたんですね。最近は高いものも売れるようになつたので、ヨーロッパに負けないようなものをつくつていてますけどね。そういうように業界が変つて來たなかで神戸の家具は厳然として昔の状態を維持しているわけですね。



吉田 俊夫さん



河南 忠義さん

ローパー人はまた古いものが好きですしね。神戸は洋家具については色々なものを見られたということでは有利だったんじゃないですか。

高野 横浜の家具は宣伝は盛んですが、大量生産ですね。神戸には大量生産をやって全国に流しているのは少ないですね。

河南 神戸の家具屋といつても本当に神戸家具だけをつくって売っているところは少ないですね。あとは折衷。たとえば产地物を扱い、百貨店のように大量に扱っているところが多いですね。純然たる神戸の家具を扱っているのは二十か三十ですね。

永田 店の数で二十、工場を入れて五、六十ですか。

高野 大体、規模が小さいですからね。今後、神戸の家具を維持する上においては大分考えないといけない点です。木工団地を中心に据えるとか、生産を増やして市場をもう少し広げることも必要ですね。ただ機械化していくなくて手づくりですからコストが高くつきますね。しかし、機械化してしまうと地方と変わらなくなってしまいます。大量生産工場はつぶれるかも分らないが、職人が何人かでやっている手づくりの会社は絶対につぶれないよ。ドイツで講演を聞いたんですが、ドイツにもそういう小規模の会社がたくさんありますね。

永田 パリにもありますし、イタリアにも神戸ぐらいの規模のものがたまっている町がありますね。デンマークの大きいところでも三、四十人ですね。扱う材料が木ということもあるって、合板は別としてソリッドを使ってやるとなると自づと限定があるのと違います。ですから今の神戸の行き方は間違つてないと思うんですが、技術がいつまで保存できるかを考えたら、現状では難しいと思いますね。

高野 ヨーロッパでも手づくりは神戸と同じじゃないですか。パリの家具屋でも三人、四人とか、多いところで七人ぐらいですね。

永田 向こうはまだ徒弟制度というものが残っているの

永田 神戸では昭和二十八年に第一回の戦後の新作発表展示会を大丸でやっていますね。十年ほど前まで、十五、六回続いていましたが、神戸の新作発表会はよその家具産地のやつているのと違って、こんなものが出来るのだという腕自慢大会のようなもので、そのときにつくた新作を大量生産するというのではなくて、各店や各工場の自慢大会みたいなものでしたね。

小泉 神戸の洋家具は歴史があるので、事情は横浜古い家具はないのですか。

永田 それは居留地の性格によると思いますよ。横浜はアメリカ向けに門戸を開いていた感じで、アメリカ航路の終着地ですね。神戸の場合ヨーロッパ航路の終着地です。だから居留地にいる外人も横浜はアメリカ人が多いし、神戸はヨーロッパ人の方が多かつた。アメリカにはスタイルッシュな家具は余りなかつたんですね。ヨー

で生きのびられると思いますが、日本の場合、それがくぎれてしまつて月給取りになつて職人がいなくなつてしまつていますね。これを維持して行くことは並み大抵の努力では難しいと思いますね。

★神戸の家具の特色は塗装にある

小泉 家具屋という呼び名の意味が變つて来ていますでしょう。既成家具を売つてゐる販売店と、家具だけなしに内装をやつてゐるところですね。私のところも家具屋といつていいのか、内装屋といつていいのか（笑）一概に家具屋といつても内容は變つて来ていると思いますが。

永田 戰前から神戸の家具屋は敷物もカーテンも、リノリュームを敷いたりすることも普通やつていていたんですよいわゆる装飾屋というのは別にあつたんですねけれど、殆どどの家具屋がそれをやつていましたね。よその町へ行くとどうじやなくてカーテン屋というのが別にいて家具屋は全然それにタッチしない。結局、神戸の場合は外人からそうすることを強制されたんですね。家具屋だったラインテリアやカーテンもやらないとダメだといわれてやられたんだと思いますね。それがズッと続いていて家具屋はインテリアをやるのが当たり前だという考え方をもつっていましたね。

河南 今でもそうせざるを得ないんじゃないですか。家具だけやつております。トータルなインテリアは出来ませんというのでは仕事にならないですね。応接間が出来たらそこに家具だけ置かせて下さい。他は勝手にやつて下さいというのじや時代遅れだし、商売にならないですね。家具だけじゃなくカーテンから敷物からみなデザインしましようという時代になっていますね。インテリアの方向へ進んで当然だと思いますね。

永田 それは今の時代の話ですが、神戸では昔からそういうことをやつていました。ただ、この頃、インテリアという範囲が広がりすぎて少し漠然として来ましたね。

家具・室内装飾までは一緒だと思いますけれど……。

高野 神戸の家具屋は大小は別としてすべて製作に関つて来ていますでしょ。おやじさんが職人上がりだとかで。それだけにこなしやすいわけですね。地方では販売するだけの店が多く、造作屋が非常に少ないですね。あつたとしても最近出来たいわゆる内装屋ですね。大抵は家具を売るだけですね。

永田 神戸では自分のつくった家具に愛着があつて、それにはこんなカーテンでないと合わないということで、内装までやらざるを得なくなつたんじゃないですか。

河南 器用なんですね。

小泉 やはり、つくるところから出発しているから基本的なものを会得していますね。

高野 ヨーロッパでは置いている商品で勝負ないです。モデルを置いていて全部受注生産ですね。専門化していますね。それじやなかつたらスーパー式とかね。

吉田 確かに向こうの小売店は神戸とよく似ていますね。高野 今後の問題はまず職人を養成しなければならないことでしょう。そこに大きな悩みがあるわけです。職人のなり手が少ないのでしょう。

永田 現状を維持するのが精いっぱい、それも最大の努力を払つてですね。それと、神戸の家具はそこへ行けば全部見られるという一つの展示場があつてもいいと思ひますね。木工団地のなかに今度展示場をつくつたんですが、ああいうものじやなしに、一つのビルに入つて、そのビルへ行けば全部が見られるというようですね。『神戸家具』といつてもそれは神戸の家具屋がいつているだけで、買う方としてはその意識がないでしょうね。家具屋仲間では神戸の洋家具はいいといふことが常識になっていますが、一般の消費者のなかでは果して神戸家具というものが、松本の民芸家具などのように行き渡つてゐるだろうかというとそうではないような気がしますね。

高野 業界でも四、五年前までは相当神戸の家具を真似していますね。それに近いものをデザインして、大衆化

していますね。いまだにメーカーが習いたいのは塗装技術らしいですね。現在の地方の家具屋は戦後派が多いしまた戦前派がいても桐ダンスぐらいで洋家具には経験がないから、神戸の家具の塗装技術はみな高く評価して真似したいらしいけれど、手間がかかつて高くつくのでもうやらないらしいですね。(笑)

永田 大量生産には向かないやり方ですからね。技術的にみたら、たとえば新しい接着の技術なんかは地方の方に上ですよ。

高野 神戸の家具屋は、他の製法を知っているわけではなし、また、機械化なんか出来ませんから、今のやり方を統けて行かざるを得ないです。ただ、後継者の育成が問題ですね。

吉田 一番困るのは、やはり塗装の問題でしようね。この後継者が少なくなっているのではないかと思いますね。木工センターのなかでそれを一つにまとめて出来る設備があれば一番いいんですがね。

永田 同じ神戸のメーカーでも家具屋によって塗装のやり方が全部違うからまとめるといつても難しいですね。それが、また、神戸の家具のいいところでもあります。大きな企業にならないですかね。塗装も見た目は同じようですが、店によって多少違いますしね。

高野 それぞれ秘訣をもつていて教えない。(笑)

永田 塗りをみたらどこの家具が分りますね。そういう意味では、今、後継者難だといっていますが、職人的な気質が一番残っているのは神戸ですね。だから、それを何とか維持して行かないといけないし、もう少し体系づけて行くものが何かなかつたらいけないと思いますね。テンデンバラバラでやつっていてもダメですかね……。

高野 しかし、組織とか何とかいうと職人さんはついて来ませんね。一人ひとりの腕を生かして行くことを考えないと仕方がないですね。

永田 それでお互いにいい意味での競争をして技術が向

上して行き、いい製品が出来ればそれでいいと思いますけどね。

★家具づくりは町づくりにつながっている

永田 今、ファッショントリトリーということがいわれていますが、結局、都市は今後強烈な個性をもたないとうまく行かないだろうという発想があつて、一方、知識集約型産業ということがいわれ出して、そこからファッショントリトリーという構想が出て来たんでしょうね。

高野 神戸は地形にしても山があつて、坂があつて、海があつて、一番ファッショントリトリー化しやすいですね。また、現在そうなっているのと違いますか。

小泉 ファッショントリトリー都市の基盤、雰囲気はありますね。関東の若い女性でも、関西ではどこへ行きたいかと聞くと、食敷か神戸だというそうですね。

高野 神戸ではショッピングが楽しめるらしいですね。永田 関東の若い女性の方は関西へ来ると、京都で泊まり、買物だけ神戸へ来ると、京阪神と一緒にいてもそれぞれ特徴がありますね。京都には伝統的な工芸のファッショントリトリーをもつていて、マテリアル、原材料におけるフアッショントリトリーですね。神戸はというと土地柄が非常に明るくて、インターナショナル的なファッショントリトリーというよう、それぞれの特徴を生かしたファッショントリトリーは可能だと思いますね。そのうちでも神戸は一番アカ抜けがしていると思っていますが。

高野 神戸の雰囲気のよさには東京や地方から来る人はみな感心していますね。こういう雰囲気はどこにもないといつてね。

吉田 確かに高速を降りて、フロウードを上るとバツと山が見えて、環境はいいですね。

小泉 山手あたりにある異人館とか、ああいう雰囲気は神戸だけでしょうね。

河南 ただ、家具のファッショニズム化はものすごくくいいですね。家具はもつと地道なものであり、それだけにいわゆる流行というものはないわけですね。

高野 神戸の家具自体がオーバードックスで、ファッショニズムがあり、値打ちがあるんですから、今さらその伝統を変える必要はありませんね。

永田 世間的なファッショニズムで、手づくりブームとかいわれていますが、神戸が前からやっていたことに向こうから近づいて来たわけで、神戸のやり方は昔から何も変わらないわけです。狭い意味の服飾的なファッショニズムが神戸では非常にセンスがいいということなのでそれに似合う家具をつくって行かなければいけないということですね。家具は芝居の書き割り、舞台装置みたいなものですからね。だから雰囲気を盛り上げるのは神戸の家具屋はうまいといえますね。

小泉 流行は追わない方がいいですね。

高野 ヨーロッパでもオーバードックスというか、ズットとそういう手づくりのものしかつくってないんですからね向こうでも量産工場は目先きを変えて色んなことをやっていますけれど、伝統的なもの、神戸の家具的なものはズツと残つて来ているわけですからね。

河南 神戸の家具の値打ちは何だといつたら、何十年も前につくった椅子やらテーブルを張り替えて永く使えることが誇りであり、また、自分の息子がのれん分けで家を出るときに、これはおじいさんの代から使つていいのだとといって譲ると喜んでもつて出る。そういうことを聞くと、また誇りに思うという自負にありますから、ファンション的な要素はあまりないような気がするんですが。昔からもっているものを今、ファッショニズムといい誇りと思うということじゃないかと思いますね。

高野 だからこういう家具が好きならば、それを生かす

ような内装をしていただき、部屋づくりをしていただくということですね。お金のある人は先に家具を揃えるのじゃないですか。本当に考えている人は、自分の住む部屋から手掛けるのが本當だと思います。外観に合わせて行くのじやなしに、自分の書斎、寝室から家を考えて行くべきだと思いますね。

永田 こういう家具を置きたいからその部屋を考えてくれとかね。結局、家具から出発して家の内装、外装を考えて行く。また、それに耐えられるだけの家具をつくらないといけないわけですね。それをやるのが神戸の家具屋ともいえる親から子へ伝わるような財産としての家具をつくるのが神戸の行き方であるということだと思いますね。だから人間の生活をより豊かにするのがファッショニズムという意味からいえば、今まで神戸家具がファッショニズムの中心にあるともいえますね。

吉田 そうだと思います。これまで神戸の家具の伝統を守り続けて来た先輩の方々のいい仕事を今後もズット受け継いで行かなければいけないと私は思います。

高野 結局、神戸の家具は変化なしに、デザインとか色を変えるとか、そんなこととは関係なしに昔からの伝統をあくまで守つて行くべきだと思いますね。デザインや色や材質を変えたら職人さんがついて行けないし、ついでいったとしてもその職人さんの技術を生かしては行けませんね。やはり伝統を守つて行くべきでしょうね。

小泉 家具をつくることは町づくりにつながっていると思いますね。家具が部屋につながり、部屋が家につながり、家が町につながっているわけですから。神戸のファンション都市づくりのなかの一つの分野として家具も考えなければならないと思いますね。それは、衣服とか、あらゆるものとのファンションにつながって来ますし、そのなかの一環としての家具というものを考えないダメですね。家具だけの問題ではないと思いますね。

(オリエンタルホテルにて)

ウシオ工業株

取締役社長 牛尾 吉朗
神戸市葺合区浜辺通5丁目2の1
神戸商工貿易センタービル18F
TEL (078) 251-1651(代)

田崎真珠株

取締役社長 田崎 俊作
神戸市葺合区旗塚通6の3丁10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

ワールド

会長 木口 衛
神戸市葺合区八幡通3丁目1の12
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL (078) 332-3155

ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株

取締役社長 菊野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株

取締役社長 小泉 進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル3F
TEL (078) 851-3191

神戸地下街株

さんちかタウン・サンこうべ
神戸市生田区三宮町1丁目1
交通センタービル8F
TEL (078) 391-4024(代)



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の企画は以上9社の提供によるものです。

経済ポケツト ジャーナル

★神戸オリジナルシューズ の展示会開催

六月二十四、五両日、「第21回ケミカル・シューズ・ゴム製品見本市」(主催／神戸市、神戸市ゴム工業団体連合会)がサンボーホール、神戸市立中央体育館など三会場で開かれた。今回は三

会場で二八五社がオリジナル製品を出品し、各会場とも新作が顔を揃えていたが、生活文化につながる見本市としてみた場合、くらしに密着した生活ファッショントとしてのシューイズのあり方を前面に出しているメーカーが殆んどなかつたことは惜しまれる。

一方、七月六、七両日、「第28回秋の神戸靴展」(主催／神戸靴メーカー協会、主催／神戸国際会館五階ホールで開かれた。今回は寺本製靴(テルマー)、ボワニーサービス、リチャード製靴など十三社が



秋の神戸靴展会場

★神戸に世界中の輸入品を集める「神戸輸入品卸売センター」が設立

町)、「貿易ビル」(生田区東阪)に統いて貿易協業株式会社(本社生田区、長井多三郎社長)が葺合区磯辺通(フランコード)、「神戸輸入品卸売センター」を建設することになった。これは、輸入品専門の卸売

★ KOBE オフィスレディ ★



山田 智子さん (21才)
㈱ ファミリア本社商品部

爽やかな感じのスポーツレディ。テニス歴6年。それとサーフィン。目下、ハワイでの世界選手権を目指す。グループと高知県まで遠征して練習に励んでいる。また、ダンスやおまつりも大好きだが、手あみや生花もやる活潑さと少しやかさを合わせもっている。現在は部長づきの秘書。売り場へ応援に行くこともある。あらゆる方面で何でもやりたいという意欲満々。(市立神港高校卒業)

業者五十社を一堂に集めるもので、これによって国際港都神戸の名に恥じないような世界各国の輸入品が何でもそろい、合わせて卸売業者の経営の合理化、販路の確立を狙い、また、小売業者にとっても便宜がはかれるようになつていている。来年三月オープンの予定。

★甲南漬本舗が

旧本店を新装オープン
甲南漬でおなじみの「高嶋酒類食品株式会社」(本社東灘区、高嶋平介社長)の旧本店が七月二日、十年ぶりに新装オープンした。場所は国道43号線をはさんで本社の山側。

この店舗は、同社の前身高嶋平介商店の二代目の本店として大正11年に開店したもので、当時の阪神電車東明駅前に建てられたが、昭和41年に閉鎖したもの。



落ち着いたたたずまいの店内

同社では本社売店での販売のウエイトを序々に減らし、本店での販売に力を入れる方針である。

神戸文学賞 設定 神戸女流文学賞 設定

△設定趣旨△

このたび小社は神戸文学賞および神戸女流文学賞を創設いたしました。有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動のいっそうの発展のために微力を尽したいと願っております。ここに第一回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに、清新かつ強力な作品の出現を期待する次第であります。

△募集要項△

一、神戸文学賞は男性作品、神戸女流文学賞は女性作品とし、共に西日本在住者に限ります。

一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。

一、原稿枚数は四百字詰百枚前後。

一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度のあらすじをつけて下さい。

一、締切りは九月一五日（当日消印有効）

電話〇七八一三三一一二二四六

☆なお、選考は本誌が依頼した選考委員によつて行います。

主催／月刊神戸つ子

きものと細貨

あんざらを



東京

本部・仕入部 神戸市東灘区青木五丁目一五一—一九
市街地改造により工事中 昭和五十二年末完成予定
神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八—三三一一一七〇〇
銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八一〇 電話〇三一五七三五二九八（代）
渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話〇三一四七七三四〇九（直）
日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九一 電話〇三一一一〇五一一（代）
（四階和装名家街）
池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八一 電話〇三九八七〇五六一（直）
（四階きもの小路）

そう、あまりに光あざやか

夏



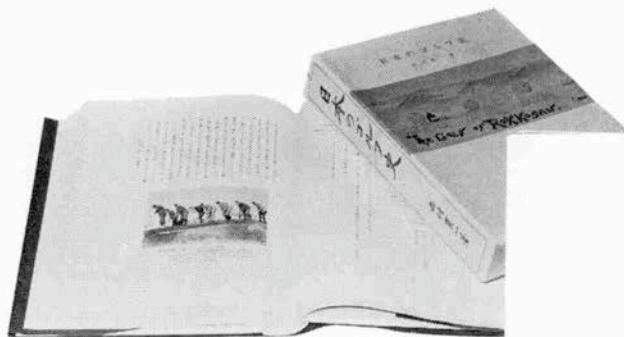
顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123



故西村貫一氏



左：「日本のゴルフ史」
右：「A BIBLIOGRAPHY OF GOLF」

松島 雄一郎

（「ゴルフクラブ」編集長）

西村 雅司

（西村写真研究所所長）

バラケツが創るゴルフ史

〈1〉 対談／日本のゴルフ史[復刻]を語る



西村 雅司さん

松島 雄一郎さん

★西村旅館の副産物

松島

「日本のゴルフ史」復刻記念パーティーでお父さん

があれだけの人を集めるということは神戸の土地柄かな
東京ではああいう集まりはまた感じが変わりますね。
材料がいいってことですよ。一番大きな事ですね。

良い親孝行をしたといつてももらいましたよ。

松島 今日は、「神戸っ子」の対談ですが実は僕も神戸っ子でしてね。あなたの父さんは偉い神戸っ子でしたね。「日本のゴルフ史」という本は大変なものだと思いますよ。日本のゴルフが六甲で始まつたことだけを威張つてもしかたないんですよ。この本で記録がちゃんと残っていることに意味があると思うんです。

西村 オランダやフランスでもないようですね。

松島 日本は明治三十六年に始まつてゐるんですが、始球式で一発しか飛ばなかつたなんてことまでちゃんと載つていますよ。

西村 オヤジは執拗ないわゆるしつこい人間ですが、面白いと思うのは、片面では非常によく遊んでいたオヤジがもう片面では静かに物事を学究するという両面性をもつているんですよ。今、オヤジの死んだ後でもいろんな人から昔のオヤジの悪行を聞かせられますよ。(笑) 松島 僕は「西村旅館」にとても興味をもつているんです。いろんな一流人物が泊つて、一流の人々と常にお父さんは耳学問で接していたんですね。

西村 面白いエピソードがありましてね。隣の旅館が売りに出たとき、母親は買おうとしたんです。当時十三部屋で、母親は買えば部屋数が増え、もうけも多くなるという単純計算をやつたんですよ。ところが父親は「やめてくれ、十三部屋を八部屋に減らしてほしいぐらいだ」っていうんですよ。一日二十四時間のうち八時間は寝、八時間は自分のために必要で、あと八時間商売のために使う。だから一時間に一流人物に一人会つても八時間しかないので十三部屋でも多すぎるぐらいだ。

松島 今の商売もそんな風にしてほしいなあ。

西村 この考え方だけは徹頭徹尾死ぬ迄変わらなかつたですよ。

松島 一流の人々の言葉を聞いて大いにプラスされるというところがあつたんじゃないですか。

西村 戦後、焼け跡にもう一度西村旅館をオヤジは建て

ると言つたんですが、私は神戸でやることには反対したんです。當時だと淡路や四国の船客関係で客層が落ちますからね。もし旅館をするなら東京か大阪でやろうと言つたんですが、この神戸の土地は先祖から預つたもので他には住みたくないと言うので、それなら「宿泊設備をもたない西村旅館です」といえる「ヘチマ俱楽部」をつくつたんです。

松島 「日本のゴルフ史」は素晴らしい本ですが、本当に西村旅館の神韻は、明治から大正・昭和の初期、ヨーロッパへ行くといつては御厄介になり、帰ってきてはまた御厄介になるそうした行き来する様々の文化人が記録されているんですね。大きなあこや貝のような「西村旅館」というものからボトツと落ちた真珠がこの「日本ゴルフ史」ですよ。西村旅館の副産物ですね。

西村 確かにそうだと思います。何故神戸から生まれたのか。それが実際神戸に残つたものであり、一番文化的エッセンスの高い、知恵でも習慣でもないものの表現があるんじゃないかな。

松島 理屈では生まれてこないんだよね。

西村 神戸の風土があるんかな。汽車に乗つてきた客を世話して船に乗せてあげる。オヤジが「オレは交通機関のジョイントなんだ」と言つてましたね。

松島 そなんなんだ、ジョイントなんだな。

西村 そういうことに権威をもつていたんですね。仕事ぶりを聞いていても、とても面白いですよ。

松島 神戸じや「バラケツ」って言葉があるでしょう?

西村 そうそう、ありますよ。

松島 不良少年というが、私は神戸のバラケツっていうものは單なる不良少年じゃないと思う。貫一さんでいうのは一種のバラケツっていうのかな。バラケツって悪い言葉だけど、軟派と硬派っていう言い方も加えれば、硬派のバラケツ精神をもつた人やないかな。偉そうにしている人間がいるとひとつかましてやろうかなという具合でしよう。神戸はバラケツが一番面白い。



▲大正14年頃の西村まささん
(横屋ゴルフ・アソシエーションにて)

▲大正14年頃の西村貫一氏
(横屋ゴルフ・アソシエーションにて)

★やまと田の目をみた「ビブリオグラフィー」

西村 この「日本のゴルフ史」の原稿が驚いたことにはオヤジが三十八才の時に完成して出版しているんですよ。いやらの長ったらしい題名の "A Bibliography of Golf based on the Compiler's Private Collection of Golf Literature" は四十三才の時に完成しているんですね。

松島 世界のゴルフに関する文献目録の集大成であって西村貫一さんが全て読み、目を通したものなんでしょうね。

西村 ええ、これは百冊印刷して、五十冊を国会図書館に配布の目録をつくってもらつて、世界の著名図書館に献本したんですよ。それから西村旅館を通じてみた明治大正・昭和の文化史も、十年位たつて、四十七、八才のときすでに原稿用紙千枚にまとめてあるし、若いときにそういうことをビシャツとやつていて。出版したいという気持ちは絶えずあったようですが、「A B I B L I O G R A P H Y O F G O L F」の出版には日数と費用がすごくかかるんですよ。何しろ記号がすごく多くてXを一つ間違えただけでミスプリントになるんです。この本の最初の方に印されているように約束ことがたくさんあるんです。完全に知つていなければこの記号の向き一つで意味がかわってしまうんですよ。

松島 校正なんかも、四、五回はしないといけないだろうし、時間がずい分かかりますね。

西村 父のこのビブリオグラフィーのお手伝いをして下さった中島涼さんが校正にかかる時間を計算したら三年かかる。費用も莫大なものになるし、そんなに売れる本でもない。「出したいなあ」と言しながら、原稿が完成して今日まで、四十二年間家の書庫で眠っていた。そのうち親父は死んでしまって不幸なことにはうちはメスばかりで、西村家生き残りの男一匹といつたら僕のこと

なんです。家のアブラ虫までメスなんだと思いませんよ。

(笑)

松島 雅司さんのお元気な間に出版しておかなくてはというところですね。(笑)

西村 幸に親父が指一本で打った原稿が、一定の用紙でサイズが同じだったことと、最近の写真製版の技術の簡易化のおかげで、コピーを取るのと同じ方法で、原稿から直接印刷の版が取れることができた。これによって活字をひろうことによるミスと、校正に要する三年の時間が一挙に省略できた。

ビブリオグラフィを印刷して、父の友人の明治文化研究会会長の木村毅さんにお見せしたら「実はこの本は一生日の目をみん本やと思つとった。原本一冊をどうしようかと、貫一さんの書いた原稿を写真にとっておくといふ方法しかないと思つたのに、お前よう出したよつたな」といってほめてくれたんですよ。

★ 風俗史をかねたゴルフ史



出版記念会風景 (6.29. オリエンタルホテル)

誰がどこへ泊まつたという点だけで、時代背景が全然書いてないのでその肉付けがほしくて木村先生にお願いしたんですよ。松島 明治・大正・昭和を通じて書けるのはあの方ぐらいででしょうね。僕もあれは絶対に肉付けしたものが必要だと思いますね。神戸っ子として是非やつてほしいです。話は「日本のゴルフ史」にもどりますが、ゴルフ界では、この西村さんと伊藤長蔵さんが二大奇人だつたんですね。ともに神戸っ子です。バラケツ精神をもつていたんですよ。西村さんは記録しないといかんと気が付いて、やりだしたら凝る人だから、日本のゴルフの始まりは英国人によつて行なわれ云々と、すっかり調べ上げた。これがなかつたら日本のゴルフの初まりは全然わからなかつた。それに珍しい写真が沢山あるし、六甲山に登るカゴの値段が何錢何里といった風にゴルフの歴史だけではなく、避暑地としての六甲を通して風俗史というか文化史的な値うちがあるね。

西村 摂津茂和さんが讀辭してくれるのは、本当の歴史の本の書き方の見本を示しているからだと言うんです。松島 美文では何になりませんね、後世の人には。具體的なことが書かれていなかつたら全然面白くないんですね。事實を連ねている歴史の本としては大変貴重ですかね。

西村 「たぶんそうであろう」ってことは一切書かなかつたんですよ。

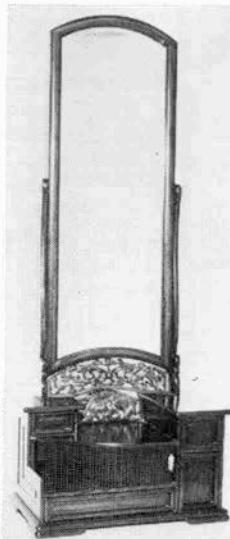
松島 僕は新聞記者でしたが、調査不充分な記事だと美文を書いてしまうんですね。充分な材料があれば並べただけを考えればいいですから人に喜ばれますよ。その点、充分な調べがしてあって单なる日本のゴルフだけではなく風俗史でもあるところに「日本のゴルフ史」の値打ちがあると思います。

西村 小説家のタネ本としての価値もありますが、それ以上に明治・大正・昭和という三時代に亘つての神戸の人物交流史という、わが郷土の文化史的な価値が高いの

ね。僕は何とか出版したいんです。このままだと何年何月

△オリエンタルホテルにて▽

刀劍 古美術
書画 骨董



一六五、〇〇〇円

縦紫檀姿見／引出両用／一三五cm

鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい
神戸市生田区元町通6丁目25番地
刀 古骨 美術董
元町美術
TEL078-351-0081

アイスクリーム



ビロウドの味

〈125ml ¥200～960ml ¥1200〉

フランス風の手作りの味。さんちか茶寮、
本店喫茶室では、特製のサンドアイスクリ
ームを、御進物・御家庭には容器入りを…。



神戸鳳月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎(078)391-2412